

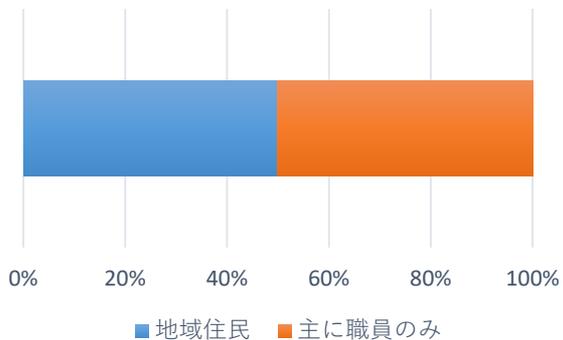
広島県における病児・病後児保育を行っている施設の取り組み

(平成30年度実績)

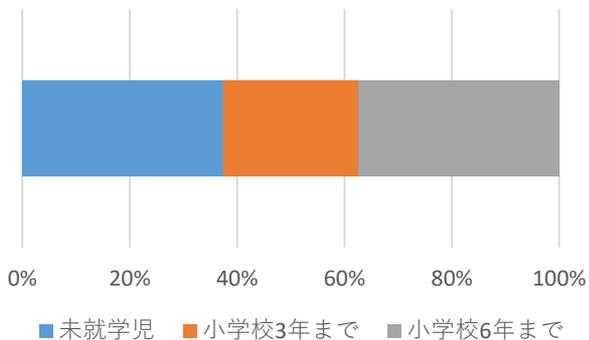
No	施設名	医師利用	対象	利用可能日時	病児・病後児施設を運営するに当たって注力している点	今後改良していかなくてはならない点や 問題点と考えられていること	その他日本医師会などに対する要望について
1	独立行政法人国立病院機構 広島西医療センター	可	大竹市民 生後6ヶ月から小学校6年生まで	月曜日～金曜日 (土曜日、日曜日、祝日、 年末年始を除く) 8:15～18:00	-	-	-
2	市立三次中央病院	可	三次市民 生後6ヶ月から小学校6年生までの 児童	月曜日～金曜日 (土曜日、日曜日、祝日、 年末年始を除く) 8:00～18:00	・預かり児童の症状(体温・症状等)を随時保護者へ 連絡を行い不安の解消。 ・小児科医の先生の回診がある。 ・年に2回、三次市内の保育施設にお便りを出し市民への 周知を図っている	今のところありません	ありません。
3	福山市民病院	可	原則市内に居住する 0歳児から小学校6年生までの児童	月曜日から金曜日の外来診察日 (祝日・年末年始除く) 8:30～18:00	慣れない環境と体調によって不安になる子が多いので、少しで も気が安らぐよう、個々に応じた遊びやふれあいを大切にしてい ます。また、安全に過ごせるよう、保育室・玩具の点検や消 毒を行い、清潔に努め、施設内感染を防いでいます。	利用のキャンセルがあった場合に、キャンセル待ちの利用者に なかなか連絡が取れないことが多く、スムーズに利用につなげ られていない面があります。キャンセルの連絡を忘れる保護者 が多いため、利用予約については改良が必要だと考えて います。	特にありません。
4	県立広島病院	可	県立広島病院に勤務する職員 小学校3年生まで	月曜日～土曜日 (祝日及び年末を除く) 7:15～18:15 (延長は20:15まで)	児童の体調管理	特にありません。	特にありません。
5	JR広島病院	可	JR広島病院職員及び連携企業 0歳(生後57日目)から 6歳(未就学児)まで	月曜日～金曜日 (土曜日、日曜日、祝日、 年末年始を除く) 病児は8:30～17:45	・病院小児科との連携 ・事前登録の推進	現在利用件数が少ないので今後改良が必要	特記事項なし
6	広島市立安佐市民病院	可	広島市立病院機構の職員が保護者 である乳児又は幼児	全日 7:00～18:00	きめ細やかな保育を安全かつ効率的に行うよう努めています。	現時点では特に問題点などについてはありません。	特にありません。
7	日本鋼管福山病院	可	病院職員に地域枠あり 未就学児	月曜日～金曜日 (土曜日、日曜日、祝日、 年末年始を除く) 9:00～20:00	医療職(看護師、管理栄養士、小児科医師)による 保育士へのサポート (小児医療に関する情報提供や勉強会・研修など)	保護者職員の安心、満足が患者CSの向上、医療の質向上につな がると考えているので、処遇改善による保育士確保対策と保 育・教育内容を充実させていきたい	保育士の安定確保のため、病院直営の認可保育施設への就職が、 良い就職先の一つであることを全国の保育士養成機関にアピール して欲しい
8	福島生協病院	可	隣接の生協小児科ひろしまに設置 医師が利用可能と判断した 生後6ヶ月から小学3年生	平日月～金 8:30～17:00 第1・3・5(土) 8:30～12:30	複数の疾患に対応して受け入れられる体制作り	利用者の要望にあわせて開始・終了時間の延長	行政には病児保育への女性を養成してきましたが、近隣の病児 保育施設との関係で実現しませんでした。女性について医師会 としてもご検討頂ければ幸いです。

広島県における病児・病後児保育を行っている施設の取り組み

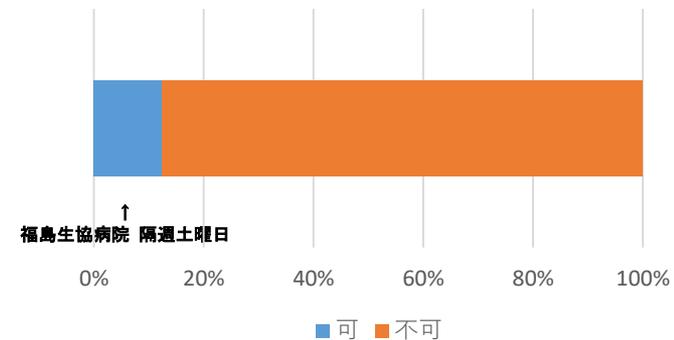
預ける保護者の対象



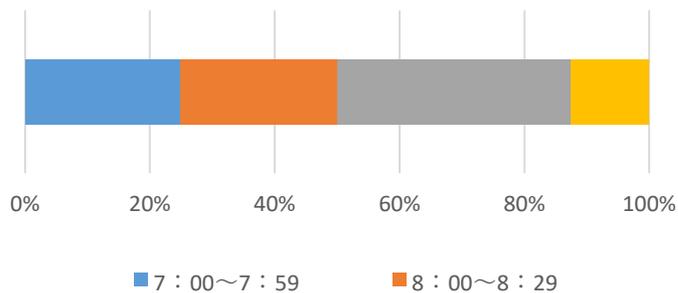
子供の対象年齢



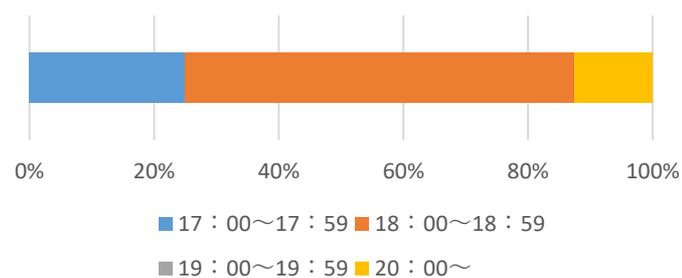
平日以外の預け入れ



開始時間



原則終了時間



保育ファミリーサポート制度等育児支援制度の取り組みについて

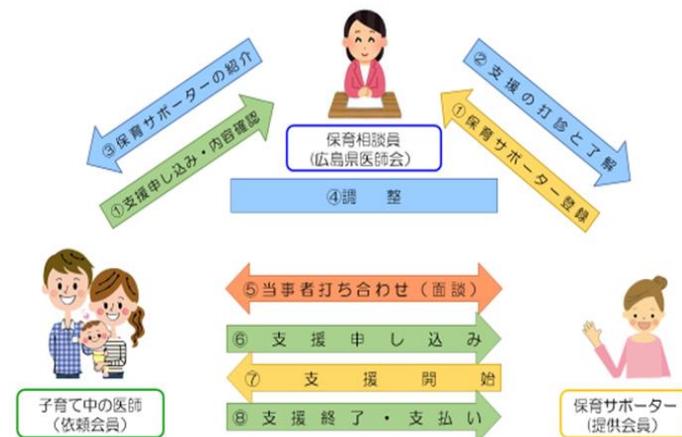
子育てをしながら就労する女性に対しては国の支援が急速に進んできており、子育て中の医師にとっては福音である。

しかし、女性医師（男性医師も含め）の就労環境は一般企業と異なり定型的ではなく、子育ての際に起きる小さな困難がしばしば医業継続の妨げとなり得る。

広島県医師会では、2017年度より子育て支援事業の実施に向けて取り組みを開始した。

幸い、隣県の山口県医師会は「保育サポート事業」の先進県であり、ご教示頂きながら現在に至っている。

取り組み開始から実現に向けて当県では多くの課題があり、2年以上の時間を要しているのが現状である。



その主な問題点は以下の通りである。

1) 保育サポート事業の必要性への理解

子育て中の女性医師等への支援不足が、医師不足の大きな一因になっていることは、病院管理者は実感するようになり、院内保育室の充実を進められているが、医師会内では事業を提案した2年前には温度差があった。

当初は、各市郡地区医師会などに資料を提示しながら説明と理解を求めた。

2) 運営費用の問題

資金は補助金をあてることとなったが、医師会内で理解を得、さらに行政に協力を求め、ようやく申請という経過をたどり、1年以上の時間が費やされ、さらにその決定を待つことになっている。

3) 保育サポーター確保の問題

山口県医師会は、県行政と協力して開始されたこともあり、市町村のファミリーサポートが協力されていると伺った。

現在、最も女性医師の多い広島市にお願いし協力を得たところであるが、開始まで時間がかかっており、確保に不確実性が残っている。

広島三本の矢チームを核とした支援策オーバービュー

